



現場から（最近のニュースから）

## 抑圧された人に



2025 年 4 月 13 日から 10 月 13 日までの 184 日開催された大阪・関西万博が盛況のうちに幕を下ろしました。「いのちの循環」というテーマで開かれ、公式キャラクターのミャクミャクの姿は、一つひとつ姿やかたちが異なっても多様な個性があることを表現していて、すべての存在の「いのち」がつながるということを象徴しているということでした。いろいろな違いがあっても、それらがすべてつながっているという思想は、最近、さまざまな所で言われています。そのように言われる背景は、地球が変化していき消滅していく生物もあるので、それに対して警告することでもあり、人間社会においてもマイノリティと呼ばれる人々がいるので、その人々も大切な存在だと認めるべきだということでしょう。そのようなマイノリティにどのように対するべきかは、単純なことではないという記事がありました。オランダ・ユトレヒト大学准教授であるハンノ・ザウアーが、歴史、進化生物学、統計学などのエビデンスを交えながら「善と悪」の本質をあぶりだす『MORAL 善悪と道徳の人類史』（長谷川圭訳）という本からです。

「マイノリティや被差別集団の声に誰も耳を傾けない」あるいは「疎外された人々の言葉を誰も信じようとしない」と言われていて、その問題を解決する一番の方法は、単純に、彼らの言葉に耳を傾け、話を信じることだと考えられているようです。しかし残念ながら、この方法はうまくいかないということです。なぜなら、抑圧されてきた人々の話を信じるために、まず彼らを抑圧されてきた人々だと認めなければならないのですが、そのように認めるためには、抑圧されてきたと主張する人々を単純に信じるのではなく、確固とした基準が必要だからだということです。基準がなければ、自分も抑圧されていると嘘をついたり誇張したりする人々に悪用されてしまうということです。

たとえば、「ガスライティング」という心理的虐待があります。それは、相手を支配し、服従させ、最終的には破滅させることを目的として、意図的に誤った情報を与えたり、嫌がらせを継続したりする手法です。相手が自身の記憶や認識、正気を疑うように仕向ける心理的虐待の一種で、被害者は自分が間違っていると思い込まされ、自尊心を失い、精神的に追い込まれます。そのように抑圧されていると訴える人がいても、実際にそうなのかを知る基準が必要だということです。なぜなら、その「ガスライティング」を本来の意味とはかけ離れたケースに利用して、まったく害のない、または無関係なケースで用いられることがあるからだそうです。また、意味を薄めて、多くの人が使ってしまうと、ことば自体が空洞化されて、だれもその言葉を真剣に受け止めなくなってしまうということです。（10 月 25 日現代ビジネス＜「マイノリティの話に耳を傾ける」だけではうまくいかない…必要以上に「被差別意識」を訴える「コンセプトクープ」の恐ろしさ＞より）

たしかにすべての人は貴重な存在です。だれもだれかによって抑圧されたり、虐待されたりしてはなりません。しかし、一人一人見方や受け止め方が違うので、自分こそが正しいと思うと、それぞれが他の人が間違っているということになります。自分だけが正しいと考えること、また、人々の間を引き裂こうとすることは、良くないことだというのはだれも認めているでしょう。また、嘘をついたり誇張することも良くないと知っているはずですが、しかし、人はどうしても人々との間を引き裂く流れに流されることがあるのです。それは、なぜでしょうか。そして、それを解決する道はあるのでしょうか。そのことについて、お伝えしたいことがあるのです。



## 救いの道

だれでも幸せになって、うまくいきたいのに、なぜ人生がこんなにも苦しくてつらいのでしょうか。

予期せぬ事故にあい、やることなすこと、すべてうまくいかず、会社ではやりがいどころか、仕事と人に疲れるばかりです。学校は、もはやいじめの天国になりつつあります。家庭内は冷たい風が吹き、一つ屋根の下でばらばらになり、実際に崩壊しているところも少なくありません。そのうち体は病気になる、心も病んでしまい、眠れない夜が続きます。お酒や薬に頼り、ギャンブルや快楽に走ってみても答えはありません。わらにもすがる思いで占いをし、おふだやお守りをつけてみますが、解けそうにもなく、どんどんひどくなるだけです。

ときには、表では他人がうらやむほどの成功をおさめたのに、裏は穴が開いてもれていくし、隠れた問題でなげき、ため息をつきながら人生のむなしさを感じています。胸にはぽっかりと穴が開いて、埋められません。とても憂うつになって、時々、自殺の衝動にかられます。幻聴や幻覚に悩まされるときもあります。

なぜこうなったのでしょうか。



それは、人が神様を離れているからです。魚が水を離れ、木は土から根を放り出すと枯れて苦しみ死んでいきます。人は神様に会って神様とともにいるべきたましいを持つ存在です(創世記1:27)。ですから、神様と出会う時、すべての問題が解決され、新しい人生が始まります。しかし、人は罪を犯して神様を離れてしまい、二度と神様に会うことができなくなりました。そのときから、目には見えない暗やみの力が、人を運命の力に閉じ込めて、苦しめて滅ぼしているのです。それで、どんなに暴れても抜け出すことができません。どんどん疲れはてて倒れるだけなのです。



神様は苦しみの中にいる人を愛し、この運命の泥沼から抜け出して、神様に会うことができる道を開いてくださいました。その道がイエス・キリストです。イエス・キリストが罪人の私たちの身代わりとなって、十字架を背負い、すべての罪を赦してください(ローマ5:8)、私たちを苦しめていた暗やみと呪いの勢力を完全に打ち砕いて勝利なさいました(1ヨハネ3:8)。そして言われます。「わたしは道であり真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれ一人として神に会うことはできません」(ヨハネ14:6)イエス・キリストは神様に会う道となりました。「疲れて重荷を負っている人はわたしのところへ来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます」(マタイ11:28)と私たちを招いておられます。



もうこれ以上、苦しみの人生にとどまっている理由はありません。道であるイエス・キリストを信じることで、神様に会うことができます。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった」だれでもイエス・キリストを救い主として信じ、心に迎え入れれば救われます。下の「受け入れのお祈り」を通してイエス・キリストを心に迎えることができます。

「愛の神様、神様の驚くべき愛と、救いの計画を感謝します。今、私は罪人であることを認めて、悔い改めます。私の心の扉を開いて、今、イエス・キリストを私の救い主、私の神様として受け入れます。私の罪を赦してください、私を救ってください。感謝いたします。これからは、神様のみこころに従って生きる者にしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」